

コミュニティソーシャルワーク実践におけるミクロとマクロの接点

NPO 法人 三島コミュニティ・アクションネットワーク
 室田 信一（会員番号 2171）

0. 研究目的

大阪府の「コミュニティソーシャルワーク機能配置促進事業」の実績

演繹的な機能分析→帰納的な機能分析

仕組みとしてのコミュニティソーシャルワークから一人のワーカーとしての議論へ

→ガイドライン作成やワーカー養成における重要な議論

リサーチクエスト :

- ▶ はたして本当にコミュニティソーシャルワーカーにとってコミュニティワークは業務の範疇を越えるものなのか？
- ▶ もしコミュニティソーシャルワーカーがコミュニティワークの実践に関わるとしたら、どのような形でそれが実施されるのか？
- ▶ そのメリット/デメリットは何か？

1. コミュニティソーシャルワークをめぐるこれまでの議論

「10の機能」と「9の機能」

コミュニティソーシャルワークの 10 の機能（大橋 2005）

1. アウトリーチ型のニーズキャッチ
2. エコロジカルな視点を踏まえた相談支援
3. ICF の視点と枠組みを踏まえた自己実現型ケア方針の立案機能
4. エンパワーメントを促し、継続的に支援する
5. インフォーマルケアの開発
6. ソーシャルサポートネットワークづくりとサービスのコーディネート
7. 生活機能障害の受容と自己覚知、ピアカウンセリングの組織化
8. 個別問題の普遍化と予防および制度化
9. ソーシャルアドミニストレーション
10. 地域福祉計画策定

コミュニティ・ソーシャルワークの 9 の機能（野田 2004）

1. 個別、地域の福祉問題の課題とニーズの把握・アセスメント
2. ケアマネジメント、ソーシャルケースワーク、グループワークなどによる個別総合的支援
3. コミュニティワークによる地域支援
4. フォーマルサービスの開発
5. インフォーマルサービスの開発

- 6. インフォーマルサポートネットワークの開発
- 7. フォーマルサービスとインフォーマルサービスの連携、ネットワーキング
- 8. 評価を含む全体の運営マネジメント
- 9. 政策的な提言

コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの役割分担／分業／連携

- 各種機関の連携 (藤井 2008)
- 地域福祉推進のための 2 つのアプローチ (松端 2008)
- 社協 CSW と在介 CSW の役割分担 (所 2010)

ジェネラリスト・ソーシャルワーク／コミュニティを中心とした臨床実践／家族を中心としたソーシャルワーク

2. ミクロ実践とマクロ実践

ミクロとマクロ考え方の整理

ミクロ実践とは (Austin 2005)

- ・ 多様なクライアントと共感的かつストレングス視点に基づく関係を築く
- ・ クライアントのニーズとゴールを明確にしながら関係を保つ
- ・ クライアントと協力しながら新たな解決方法について理解を深め、その実現可能性を探る
- ・ クライアントが変革の過程を維持し、変革への意欲を継続できるように支援する

マクロ実践とは (Austin 2005)

- ・ コミュニティ・メンバーと関係を築く
- ・ コミュニティのニーズとゴールを把握する
- ・ 問題解決の方向性を提示する
- ・ コミュニティにおける変革をうみだす支援、もしくは予防的アプローチの推進
- ・ 介入の効果についての評価

大阪府のガイドライン：

- コミュニティソーシャルワーカーが果たす具体的な役割・機能
1. 制度の狭間のニーズに個別に対応し、チームアプローチを促進させる
 2. チームアプローチを通じ、サービスやシステムを提案・開発する
 3. 中学校区レベルの「いきいきネット」を充実・進化させる方策を考案し、地域福祉計画等の諸計画に提案する

3. 研究方法と内容

コミュニティソーシャルワーカー (報告者) による業務内容の整理→「行為」と「対象」

ミクロ実践／マクロ実践／両者をつなぐ実践

事例を通じたミクロ実践マクロ実践のつながり

- 事例 1：新たなサービスの開発 (ネグレクト児童へのチューター・プログラム)
- ケース会議のコーディネート、情報提供、情報交換、情報共有、情報発信、ボランティアの募集、定例会議の開催、見守り訪問のコーディネート、ボランティアのコーディネート、見守り訪問活動の後方支援、情報提供、相

<p>談援助、助成金申請</p>
<p>事例 2：ボランティアの組織化（大学生チームの運営委員会） 共催イベント、研修／オリエンテーション、情報共有、チームワーク構築、ボランティアの募集、定例会議の開催、ボランティアのコーディネート、情報提供、実習生の受け入れ、実習生指導、助成金申請</p>
<p>事例 3：個別の相談援助（複合的な課題を抱える独居高齢者への介入） 月例報告、制度利用促進、ケース会議のコーディネート、情報提供、情報交換、情報共有、チームワーク構築、見守り訪問のコーディネート、見守り訪問活動の後方支援、情報提供、相談援助、制度利用支援／アセスメント、情報提供と公的な情報の租借</p>

4. 成果と結論

- コミュニティソーシャルワーカーの業務を「行為」と「対象」から整理することで、開発、組織化、相談援助といわれる実践がミクロ実践とマクロ実践の連動により成立することが読み取れた。
- 組織内外におけるコーディネートおよび情報共有がコミュニティソーシャルワーク実践の潤滑油となっていることが確認された。
- 組織内におけるチームワーク構築や他機関との共催イベントの開催など普段は評価されにくい業務を可視化することができた。→事業ガイドラインやワーカー養成に有用と思われる。
- 限界として、地域福祉計画の策定がおこなわれていない時期に今回の調査をおこなったため、フォーマルな形で行政への提言や事業の施策化がおこなわれることがなかった。
- 今後は他のワーカーに対して同様の調査を実施し、研究の妥当性について言及する必要がある。

参考文献

- Austin, M.J., Coombs, M., & Barr, B. (2005). Community-Centered Clinical Practice: Is the Integration of Micro and Macro Social Work Practice Possible?, *Journal of Community Practice*, 13(4), 9-30.
- 藤井博志 (2008) 『コミュニティソーシャルワーカー活動事例集』大阪府.
- 松端克文 (2008) 『日本型コミュニティソーシャルワークの推進システムと実践方法の構築に関する研究』科学研究費補助金基盤研究成果報告書.
- 野田秀孝 (2004) 「地域での自立生活支援とコミュニティ・ソーシャルワーク」濱野一郎, 野口定久, 柴田謙治編『コミュニティワークの理論と実践を学ぶ』166-177, みらい.
- 大橋謙策 (2005) 「わが国におけるソーシャルワークの理論化を求めて」『ソーシャルワーク研究』31(1), 29-44.
- 大阪府 (2007) 『いきいきネット相談支援センターコミュニティソーシャルワーカー (CSW) 事業ガイドライン』大阪府.
- 所正文 (2010) 「堺市社協における地域福祉発展戦略としてのコミュニティソーシャルワークの推進」『地域福祉実践研究』創刊号, 13-23.

資料1 コミュニティソーシャルワーカーの業務分析（試案）

対象	行為	マクロ実践	<——>	ミクロ実践
		提言、評価、報告、広報	コーディネート、組織化	相談援助、エンパワメント、教育（指導）
政府	年時・月例報告 《計画策定への参画》		制度利用促進	
他機関／専門家 （行政含む）			ケース会議のコーディネート 共催イベント	情報提供 情報交換
法人内／組織内	業務記録 業務分析		研修／オリエンテーション 情報共有 チームワーク構築	《スーパービジョン》
地域住民	情報発信（機関紙、ブログ） 《署名活動／募金活動》			なんでも相談
民生委員 地区福祉委員 ボランティア	ボランティアの募集		定例会議の開催 見守り訪問活動のコーディネート ボランティアのコーディネート	見守り訪問活動の後方支援 情報提供
対象者／クライアント			セルフヘルプ・グループの 立ち上げ支援	相談援助 制度利用支援／アセスメント 情報提供と公的な情報の租借
大学／アカデミック	調査 研究		実習生の受け入れ	実習生指導（スーパービジョン）
企業	《寄付金集め》		《ボランティア受け入れ》	
基金／財団	助成金申請 事業報告			
自分	業務記録		スケジュール管理	休暇 研修／勉強 準備

《 》…今後実施する予定